

## 石巻専修大学『公開講座』開催のご案内について

今から 13 年前、石巻市は、東北地方を襲った東日本大震災により甚大な被害を受けました。多くのひとが住む場所や仕事を失い、多くの犠牲者も出ました。当時の被災者は、明日のことすら考えることができないほどの辛い毎日を送り、生きる希望を見いだせない状態でした。

そのような中、幸い建物に大きな被害の無かった石巻専修大学では、被災直後よりまちの復興に尽力してまいりました。多くの方のご支援を頂戴しながら、市と市民と大学が一体となってまちの再建を目指しました。再建に向けて歩み始める中、我々が目指したのは単なる復興ではなく、新たなまちづくりでした。新たなまちづくりとは、これまで以上に市民が生きがいをもち、安全で安心なまちを築くことでした。大地震は、まちそのものの機能を奪います。石巻市は、東日本大震災により、ゼロではなく、言わばマイナスからのスタートとなりましたが、市民の強い心と意志により復興し、このたび内閣府より「SDGs 未来都市」の指定を受けました。

今年 1 月 1 日には、能登半島で大きな地震が発生しました。首都圏でも非常に高い確率で首都直下地震が起こるとされています。国や自治体では、地震への備えを進めるため、各家庭への呼びかけを強めており、我々の意識も高まっているところです。しかしながら、防災や減災に関する知識や意識には、まだまだ個人差があると言ってよいでしょうし、実際の取り組みも同様かと思えます。我々は、いつ起こるかわからない災害について、「すぐには起きないかもしれない」と、頭の中で勝手に言い換えてしまっているのかもしれない。防災や減災といった災害への備えは、個人レベルで終わるものではなく、地域や学校単位での対応もたいへん重要となります。

被災者の心の復興には、最低でも 10 年以上の歳月が必要だと言います。言葉では言い表せないほどの災害を乗り越え復興を成し遂げた石巻市に所在の石巻専修大学は、これまでの 13 年間で振り返り、このたび、未来志向の「まちづくり」について皆様と一緒に考える機会を東京（専修大学神田キャンパス）で設けさせていただくこととしました。先生方はじめ、御校の生徒様やそのご家族様での参加をお待ちしております。なお、この公開講座は、石巻市と宮城県に加え、復興庁宮城復興局の後援での開催が決まりましたことを申し添えさせていただきます。